令和２年度第２回　清瀬市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体 会議録

１　開催日時　令和２年 11 月５日（木）15 時 30 分から 17 時

２　開催場所　生涯学習センター　７階多目的ホール

３　出 席 者　出欠席名簿の通り

４　配布資料
- 次第
- 資料１　第１層協議体委員一覧
- 資料２　第１層協議体設置要綱（簡易版）
- 資料３　事前アンケートの結果から
- 資料４　社会資源一覧表（②、③要介護状態等の予防・改善）
- 資料５　令和２年度第１回第１層協議体　各項目に対する意見記録（案）
- 改訂版　令和２年度第１回第１層協議体事前アンケート集約表

５　次第

（１）　開会

■　長谷川委員長より挨拶

　コロナ禍でなかなか開催できず。広い会場でということで広い会場での実施となった。また、一部の方はネットで参加いただいている。また、昨年度は３回の協議体を実施。今年度第１回目は書面による開催となったため、今回は第２回目となる。前年度の課題事項をどう取り組むか、コロナで滞っている活動をどうするか話し合っていきたい。

■　事務局よりアナウンス

　事務局より資料確認を行った後、感染対策について説明。参加者には受付時の検温やマスク着用・手洗い・消毒の確認を行った上で参加いただいている。発言の際にはマイクの消毒作業を行うことにご理解いただきたい。

　また、オンラインの方に音声が届きにくいため、マイクを使っての発言をお願いしたい。発言の際には指名させていただくので挙手に協力願いたい。

（２）　前回振り返り

■　第１層協議体設置要綱と目的の確認

　事務局より資料２を用いて説明。協議体の役割として、次の４つの視点を確認。また、これらを通じて生活支援・介護予防サービスの充実を図るとともに、地域における支え合いの体制づくりを推進することを確認。

①自立した日常生活の支援
②要介護状態となることの予防
③要介護状態等の軽減・悪化の防止
④その他これらを促進する事業の実施

■　前回議事録の確認

協議体や地域包括ケアシステムの理解を深めることからスタートし、現状における市内の取り組みを把握するため、地域別の高齢化状況や各第２層協議体の取り組み、各委員が所属する団体で取り組んでいること、地域ケア会議、円卓会議（地域づくりの会）等、様々な情報を共有してきたことを確認。今年の１月１４日を最後に対面での協議体は開催せず、１０月に書面開催を行った。

その際、コロナウイルス感染症の影響を把握するために各委員を対象とした事前アンケートを実施。結果をカテゴライズすると、①高齢者本人や介護者への影響、②地域のつながりやコミュニティ・地域活動団体への影響、③自治体や様々な事業への影響に分類され、高齢者本人やその家族に強くストレスがかかることが予測された。

また、書面開催に対する各委員の意見としては、以下のような意見が聞かれた。

- 活動再開の基準の難しさを実感する声
- こうした状況で生活支援コーディネーターがどのような活動を取り組んできたか
- 移動の問題として、免許返納後の高齢者の移動手段をサポートする必要性
- デイサービスの送迎車を活用して高齢者の移動を支えるアイディア
- 高齢者が外出するきっかけとなる取り組みを実施することの必要性
- 高齢者が「つながっている」と思える取り組みを実施することの必要性
- 協議体のネットワークを活かして情報発信を強化するアイディア
- 支援の必要性が高い方にターゲットを絞って検討する進め方のアイディア

（３）　市内における支え合いの取り組みの状況確認

①　信愛地区

＜地域の動向について＞

- 竹丘では、チーム竹丘が主催する『防災スタンプラリー』を 11 月 29 日に実施予定（密にならない工夫を実施）。
- 梅園では、月 2 回のきよトレ学校、週 1 回の 10 の筋トレの 2 種類が立ち上がる。男性の参加が多いのが特徴。

＜生活支援コーディネーターが力を入れている取り組みについて＞

- 介護予防の再開について特に力を入れている。昨年から開始している 10 の筋トレは、世話人との話し合いや場所の代替案、衛生面などのフォローを行い、10 か所の再開支援を行った。また、新規の会予防の取組として、竹丘団地あじさい自治会、パークハウス清瀬、松山清和会等を検討している。
- 信愛地域包括支援センターとして包括レターの取り組みを開始。地域を結ぶことを目的に「むすびー」というキャラクターを作った。また、社協のフードバンクと連携し、もったいない活用塾というフードドライブを立ち上げ。地域の団体を支援する活動であり、地域に出向いて家の近くで回収することを予定。サロンや子ども食堂にも提供したい。

＜第２層協議体の取り組みや議論の状況について＞

・ 2 層協議体の中で３つのルームを用意しており、ルーム 1 では地域とつながることを目標にしている。「落ち葉でつながる」をキーワードに、地域と学生、高齢者を巻き込み、落ち葉を集め、お芋を焼くような取り組みを検討している。実施にあたっては、学校支援コーディネーターやボーイスカウトとも協力し、楽しめる会の検討を進める。

・ ルーム３では、生活支援の取組を検討、子どもが活動するとありがとう券を発券し、何枚か貯まると校長先生から表彰されるような仕組みで、「楽しい、褒めてもらう」体験を作りたい。市内の何校かの校長先生からいいねと言われている。

＜日常の相談や地域ケア会議を通じて把握している課題について＞

・ 自立支援地域ケア会議として、対面での地域ケア会議が開催できておらず、書面で実施。７、9 月に 4 事例の検討を行った結果、通院支援や買い物支援が課題として挙がっていた。一方、買い物は自分で見たい、手に取って選びたいという希望も多く、移動販売などが必要ではないかとの話になっている。

② 社協地区

＜地域の動向について＞

・ ７月頃から地区内のサロンなどが徐々に再開する傾向あり。

＜生活支援コーディネーターが力を入れている取り組みについて＞

・ 10 の筋トレは 3 か所中 2 か所が再開。そのうち 1 か所はコロナ後に参加者が増加している。コロナウイルス感染症拡大下で外出の場が減り、逆に参加が増えたのではないかと捉えている。現在、1 か所新規グループの立ち上げを予定している。

・ 地域包括支援センターでは高齢者の外出促進を行う取り組みとして、エンディングノートを活用した講座を 7 月と 9 月に実施した。

＜第２層協議体の取り組みや議論の状況について＞

・ 第 2 層協議体として、「高齢者の支援マップ」（2018 年 9 月～取り組み）が完成。協議体メンバーが歩いて調査し、地図も自分達で作った。また、緊急事態宣言下ではメール等でやり取りして制作を進め、完成に至った。

・ また、協議体ではメンバーが期間中どのようなことに取り組んでいたか（マスクづくり、Zoom の活用）を話し合った他、自立支援型地域ケア会議の中で上がった課題として、独居男性の活動や課題について検討。また、他の自治体でどのような取り組みをしているか（男性の農業など）共有を行った。

＜日常の相談や地域ケア会議を通じて把握している課題について＞

・ 自立支援型地域ケア会議は、1 回のみ紙面にて実施。（昨年度は 6 ケース）

・ 交通手段（バスの本数、バス停で待つ時間が大変）、外出支援（エレベーターが無い２階）、独居高齢者（閉じこもり、服薬、栄養面）、コミュニケーション支援などの課題があがっている。

・　電話で元気と回答している方も、訪問すると話が止まらず、転倒リスクが心配な方々もいる。協議体で作成したマップを使って外出を促すような活動ができないかと考えている。

③　清雅地区

＜地域の動向について＞

・　旭が丘団地（分譲と賃貸で計 2000 世帯）ではスーパーの閉店や病院閉院があったが、11 月 13 日から新たなスーパーが開店予定。この間大変であったと地域の方々から聞いている。

・　中里自治会では、団地集会場の有効活用として、朝カフェ（9 月～週 2 回、11 月～週 1 回）を実施している。

＜生活支援コーディネーターが力を入れている取り組みについて＞

・　10 の筋トレは、2 月～休止。清雅苑が使用できず、別の会場で実施している。また、他の会場は人数等を制限しながら 2 部に分かれて実施。

・　みんなのサロンは月 1 回の開催を続けて 2 年目になる。2 月から休止していたが、9 月から再開。有志 8 名ほどが中心となり、サロンを実施。サロンを通じて初めて知り合った人もいる。月 1 回 3 時間の中で書道や石粘土など、自分たちでできることを継続し、集まることでスタッフ側もよいストレス発散にもなっている。

・　清雅苑として社協フードバンクへの協力を行っている。

＜第２層協議体の取り組みや議論の状況について＞

・　2 層協議体については、中里地域について今年度事前アンケートを取り、立ち上げ準備会を 10 月に行った。皆さんから意見をいただく中で、健康、気軽に相談できる場所、地域のつながりの大切さなどが話題に挙がった。12 月に下宿・旭が丘の会議をできるよう調整している。

＜日常の相談や地域ケア会議を通じて把握している課題について＞

・　清雅地域包括では 7 月と 9 月に書面にて自立支援型の地域ケア会議を実施。フレイル予防、移動支援が課題として挙がっている。コロナ禍で近所の介護予防の場に参加できなくなり、つながる場所がないことが課題になっていた。身近で歩いて参加できる場所が必要。

・　年を取って足が弱ったときに、団地などでエレベーターがない場合に、どうするのかが課題。団地の場所によって課題があることが見えつつある。

④　全地区

＜生活支援コーディネーターが力を入れている取り組みについて＞

・　地域の社会資源を整理し「資料４　社会資源一覧表（②、③要介護状態等の予防・改善)」にまとまった。市内の運動の場、自主グループで実施している活動など。市内が狭いとは言え、資源に偏りがみられるような状況も見えてきた。地域課題については、介護保険事業計画策定時のアンケート結果などから、転倒リスクが多い地域、地域の助け合いに関する住民の認識などが見えてきた。ケアマネージャーがサロン活動や助け合い活動の非公的サービスをどのように捉えているのかアンケートを実施したため、分

析中。

- 水と緑の環境課が進める「花のある公園プロジェクト」に生活支援コーディネーターが関わり、雑貨やパンを売る市内の団体、学校の吹奏楽部等をプロジェクトに紹介するなどのコーディネートを行った。
- コロナ禍の取組として、あったかマスクプロジェクトを実施。高齢者のストレスが高まりやすい状況の改善として、自宅で社会参加することを目的に企画。10～80 代まで約 150 名の協力があり、特に 70 代女性の参加が 7 割。元々ボランティア活動をしたことがない方々が半数近くいたが、今回をきっかけにボランティア活動をし始めた方もいた。

（4） 意見交換

- 移動支援について、高齢になって動けないから参加しない方もいるが、動けても参加しない方々がおられる。気力がなくなっている。碁が好きだった方を碁会に誘っても「碁に勝とうと思わなくなった。負けてもいいよ」という声。気持ちの支援が難しい。歩く会でも「歩く気がなくなっている」という声。これを考えていただけると良い。やる気がなくなってきている方への支援の工夫ができればと思う。
  - ➢ とても大事であり、取り組むことが難しい話。包括がフレイル予防のために啓発を呼び掛けても来ない方々はおり、その方々に対する予防が非常に課題。ただし、先ほどの話にあったような参加すると評価される仕組みがあれば 10 人中 1 人くらいは乗ってくれるのではないか。地域包括支援センターでは、訪問を継続する中で関係性を作り、介護予防事業やデイサービスにつなぐのに半年近くかかった方もいる。そうした方に対しては、地道に関係性づくりを続けていくことが欠かせない。
- 第２層協議体としてマップを完成させたことは凄い。私の夫もトイレが近くなってコンビニに飛び込むことが増えたと言っている。また、包括レターはとてもいい。市報に乗らないような情報が載るのは良いこと。市民の目に入る成果物を作ることは良いことだと思う。
- 心のケア、気持ちが落ちた人のケアをどうするか。長野にいる主人の母と 2,3 日おきに電話している。話す内容は毎回同じでも、電話をかけて声を聴かせてあげることで、相手の声を聞けて安心し、自分のことを心配してもらっている実感が力になっている様子。こうした関係を親族だけでなく、地域の中でできると、元気でなくても「元気じゃないけど、今日も頑張ろう」となるのではないか。社協で実施しているふれあいコールのような仕組みが、地域で行えるといいのでは。ちょっとしたことで関係性を築いていくこともできると思う。
- やる気や気力については、本を読んでみると「役割を持っている」「メリットがある」「責任を持ったりする」があるとつながる。喜ばれると嬉しくなって参加したくなる。豊中市の活動はそうではないか。
- 社協地区で作成したマップ作りについて、作成を通じて 2 層のメンバーの自信になり、まとまりができた。これを配布することで、新たなつながりも期待している。また、使ってもらって本当の役割が果たせる。しかし、人によっては

トイレやマップを掲載することについて必要性を認識していない方もいる。例えば「トイレが近いから外出できない」「休み休みになってしまうから買い物に行けない」人等、本当に必要な人に届くよう、必要な人とつながっている人に届け、活用してもらうことが重要。そのためには協議体メンバーだけでなく、困っている人につながってほしい。また、もっと意見をもらって改善していきたい。地図は全部メンバーが作った。市民が得意技を活かして役割を持ち、参加に結び付くことで地域がだんだん良くなっていくと思う。それを期待している。

・ コロナの中でこんなにも複数のプロジェクトを立ち上げて活動していると聞き、驚いた。新潟市はサロン（茶の間活動）が 9 割再開している。マップ作りの話を聞いていて、地域の中には活動をしたい人が多くいると思った。活動したい人が参加できる場づくりが、支え合いの地域づくりにおいて重要だと思う。また、社会資源一覧表については、47 か所も場があり、選択肢となることはすごいことだと思う。発信に力を入れ、集いの活動が進むようにしてほしい。

・ チーム竹丘ではスタンプラリー形式で防災体験ができる取組（秋の防災交流会 Go！To!!ラリー）を実施予定。チーム竹丘は竹丘の 8 自治会が合同で実施しており、8 月に音楽会、11 月には防災訓練を実施していたが、コロナ禍で実施できなかったため、本企画に至った。

≪菱沼先生よりコメント≫

・ 活動再開に向けて実施してきたことや新しい活動を実施しようとしていることは素晴しい。今後に向けては、訪問活動の充実を柱として持つ視点も必要。サロンに来られない方々がいることもわかった（身体的・認知的な課題）。緑蔭サロンが自宅訪問をしているという報告があった。活動を再開させていくとともに、訪問を充実させていくことも大事にしてほしい。

・ 意欲が下がっている人にどうするか。「参加支援」というと「参加するためにどうすればいいか」となり、お互いにしんどくなることがある。「つながり支援」「関係支援」といった方が良いのではないか。例えば、声をかけることに『価値』がある。役割を持つことも重要だが、「あなたと話をすると楽しい」「話をすると和むから来た」等、そんな一言を添えれば、話をすること自体がとても重要になる。また、多様な場に参加できるなら参加することも一つであるし、参加が難しいならつながっていることも一つ。そうした方の存在に気付いているのであれば、包括につないで気にかけてもらうことも。

・ 他地域では、電話訪問する際にお金がかかるので、サロン活動の助成金として 1 件 30 円の電話代を助成対象として認める仕組みを作ることや要綱を変える自治体がみられる。また、ラインを使うと費用はかからない。ラインの活用講座を検討してもいいのでは。ラインを使えると、Zoom にリンクをつなげることができ、サロンや１０の筋トレに来られなくなった方が参加できるようになる可能性あり。他の地域では、これまで参加しにくかった高校生が Zoom サロンに参加する事例あり。10 の筋トレも素晴らしいが、参加していない人をピックア

ップして、参加できていない人にどうアプローチするか。

・ 外出については実態把握が重要。どこに、どれくらいの頻度で、どのように参加しているか見えてくる。どうしようもなくて困っていることと、不便だけどどうにかなっていることを区別する。買い物支援は不便だけど何とかなっていることもある。何とか出来ていると、移動支援が入っても利用が伸びないこともある。通院や買い物の実態をつかむと具体的な話ができる。

・ もったいない活用塾はとてもいいと思う。コロナウイルス感染症の影響により、母子家庭がとてもしんどい状況になっている。社協では生活福祉資金の貸し付けなど対応したと思う。個々のニーズと地域の活動とをつなげていけると良い。

（５） 次回開催日

令和２年２月２５日（木）１５時３０分～１７時　中清戸地域市民センター

（６） 閉会

■ 星野副委員長より

みなさんと再会でき、取り組みを共有できたことを改めて喜びたい。地域ケア会議の共有から課題性について話があり、フレイル状態のこと等、対面してみると課題を抱えている方が見えてきた。コロナ禍による影響の他、高齢に伴う機能的な影響もあるかと思う。一方、各生活支援コーディネーターが高齢者の介護予防や生活支援につなげるきっかけづくりに奮闘している様子が分かった。しかし、課題が見えてきた一方で、今日課題を共有したからといって、すぐに解決が目指せるものではない。生活支援コーディネーター、包括、委員、地域で関わる方が共有することで、これからどういうことに取り組んでいけばよいかのヒントになったのではないかと捉えている。1層協議体の趣旨として、４つのポイントをあげているが、まさにこのことが話として挙がったのではないか。

年３回の協議体なので、その合間でも相談させていただきながら取り組みを進めさせていただきたい。菱沼先生から話のあったライン講座は、ボランティア・市民活動センター内で相談していたところだった。色々な団体がそれぞれの立場できっかけづくりの取り組みを行うと、学校支援本部や花のある公園プロジェクト等、一見高齢者の活動と関係なくて色々な取り組みを実施することができる。引き続き、共有し考える場を作っていけたらと思っている。